

フェチな息子と

ママタイム

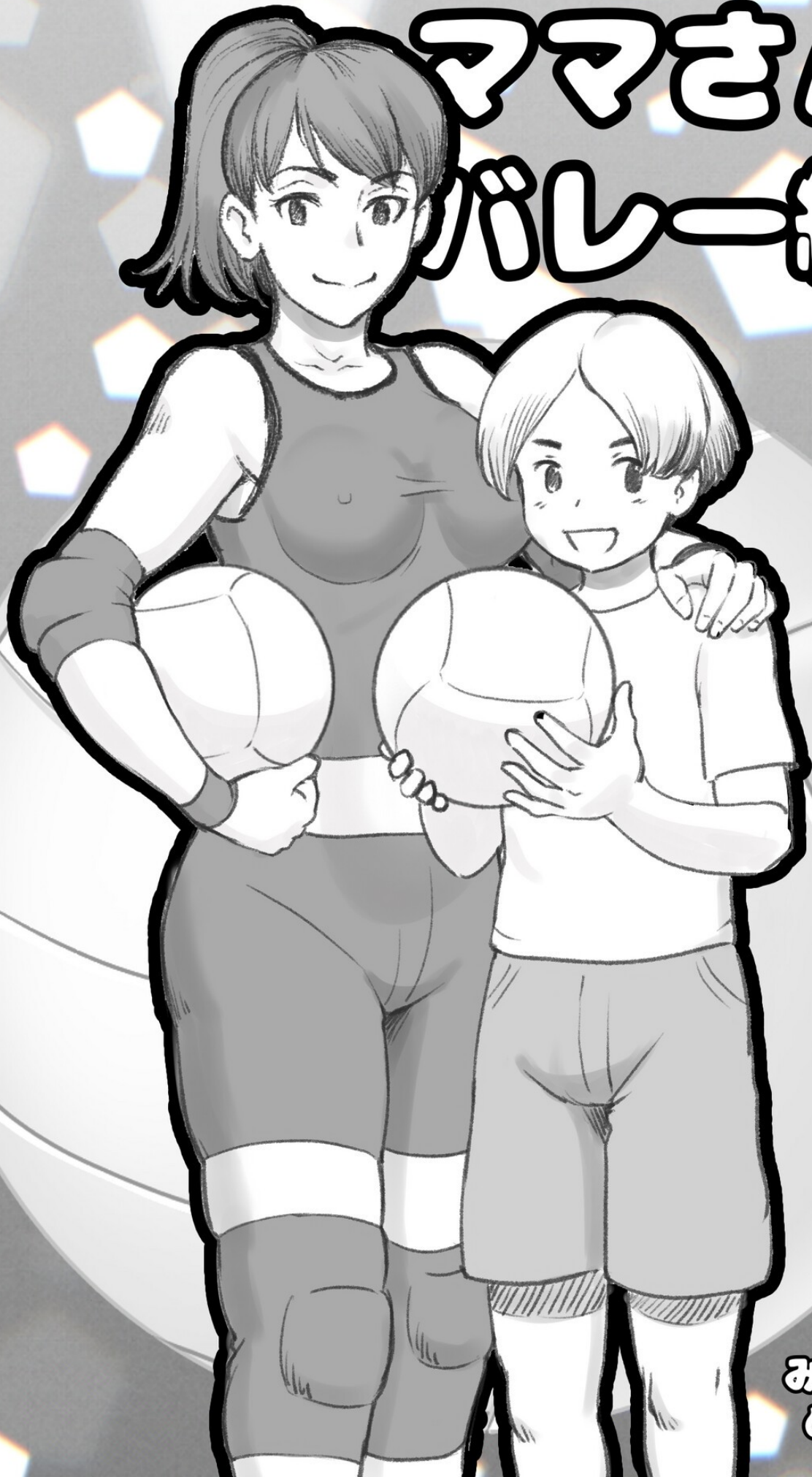
ママさん  
バレー編

スポーツママの三人♡三脚♡



ママタイム

# ママさん バレー編



さく：  
みずいろ  
めがね

由紀さんと晴翔くんは  
母子家庭。ハルト  
ごく普通の母子でした。おやこ

そんなふたりが  
バレーボールを  
通じて奇妙な縁で  
結ばれるという  
のが今回のお話。

そのきっかけは  
ご近所ママさん  
バレーだったのです♥



由紀さんは学生時代  
バレーボールの選手  
でした。  
全国大会に出場する  
ほどの実力の持ち主  
でしたが、コーチと  
恋仲になって卒業と  
同時に結婚。すぐに  
晴翔くんを出産しま  
した。

ところが旦那さんは  
不慮の事故で早逝。  
以来、バレーボール  
から遠ざかっていた  
由紀さんでしたが…



「——ねえ、由紀さん  
ちょっといいかしら？」

ご近所のママさんたちに  
声を掛けられたのはつい  
先日。  
なんでも暇を持て余した  
有閑マダムが集まって  
バレーボールを  
やろうという  
ことになった  
のだそう。

「えっ、わたし？」

「あなた選手だったって話あったでしょ。  
あと一人足りないところだし、入って  
くれたら心強いんだけどな」

「はあ。まあいい  
ですけど…」



ということで  
十数年ぶりに  
バレーをする  
ことになった  
由紀さん。

—— かくしてご町内でママさん  
バレーチームが結成されたのです。

## 狸小路バレーボール同好会

君江

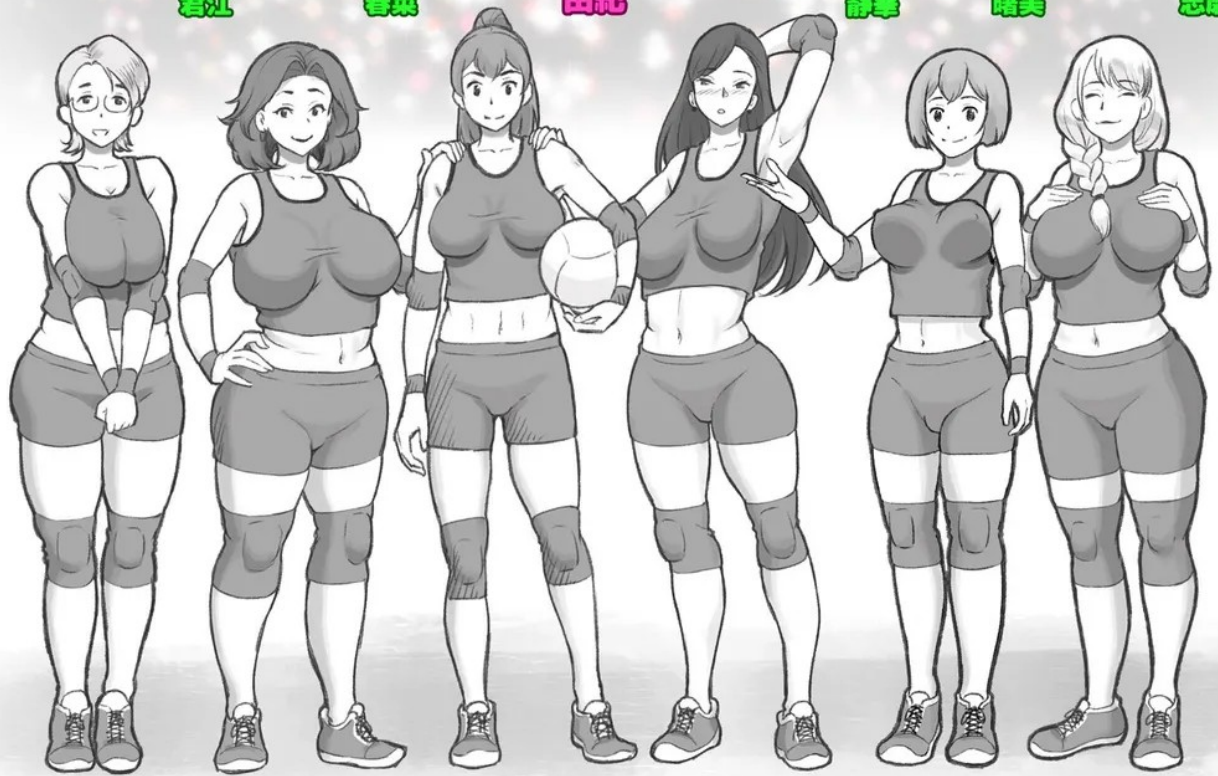
春菜

由紀

静華

曜美

志磨



いよいよ試合開始

ピーッ!

久しぶりで  
なんかドキ  
する...



||慎重お〜...!!

でしたが...

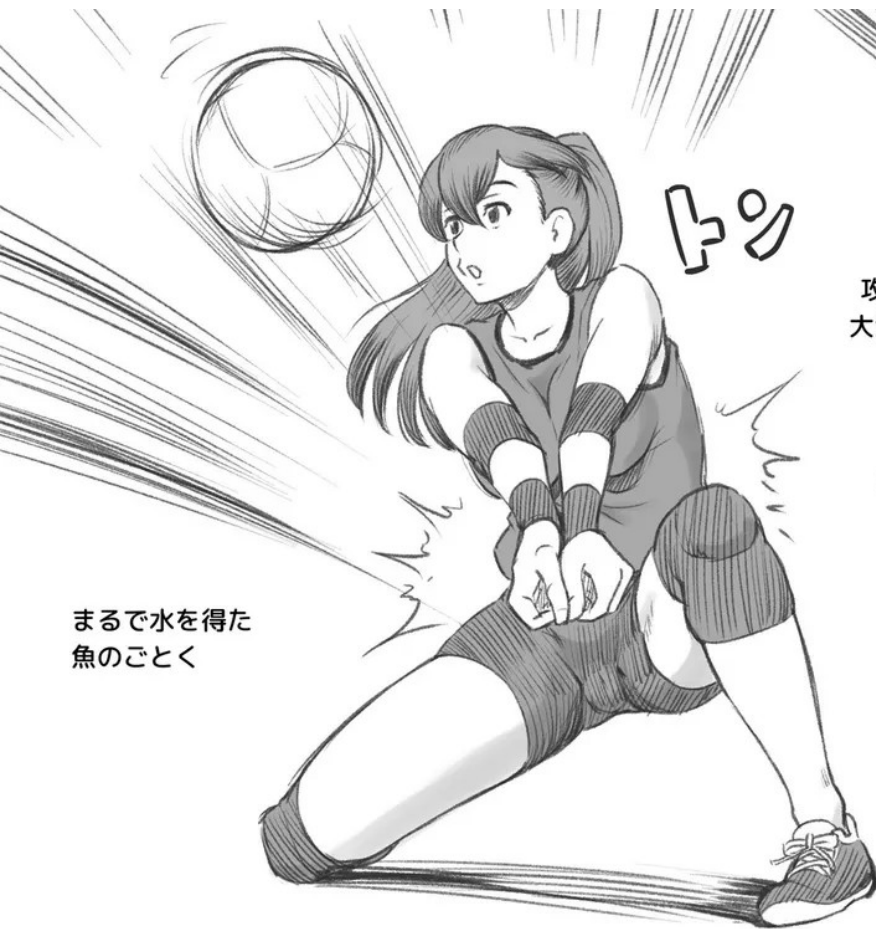


トリ..



ツヤ... ジャンプサーブ!!?





まるで水を得た  
魚のごとく

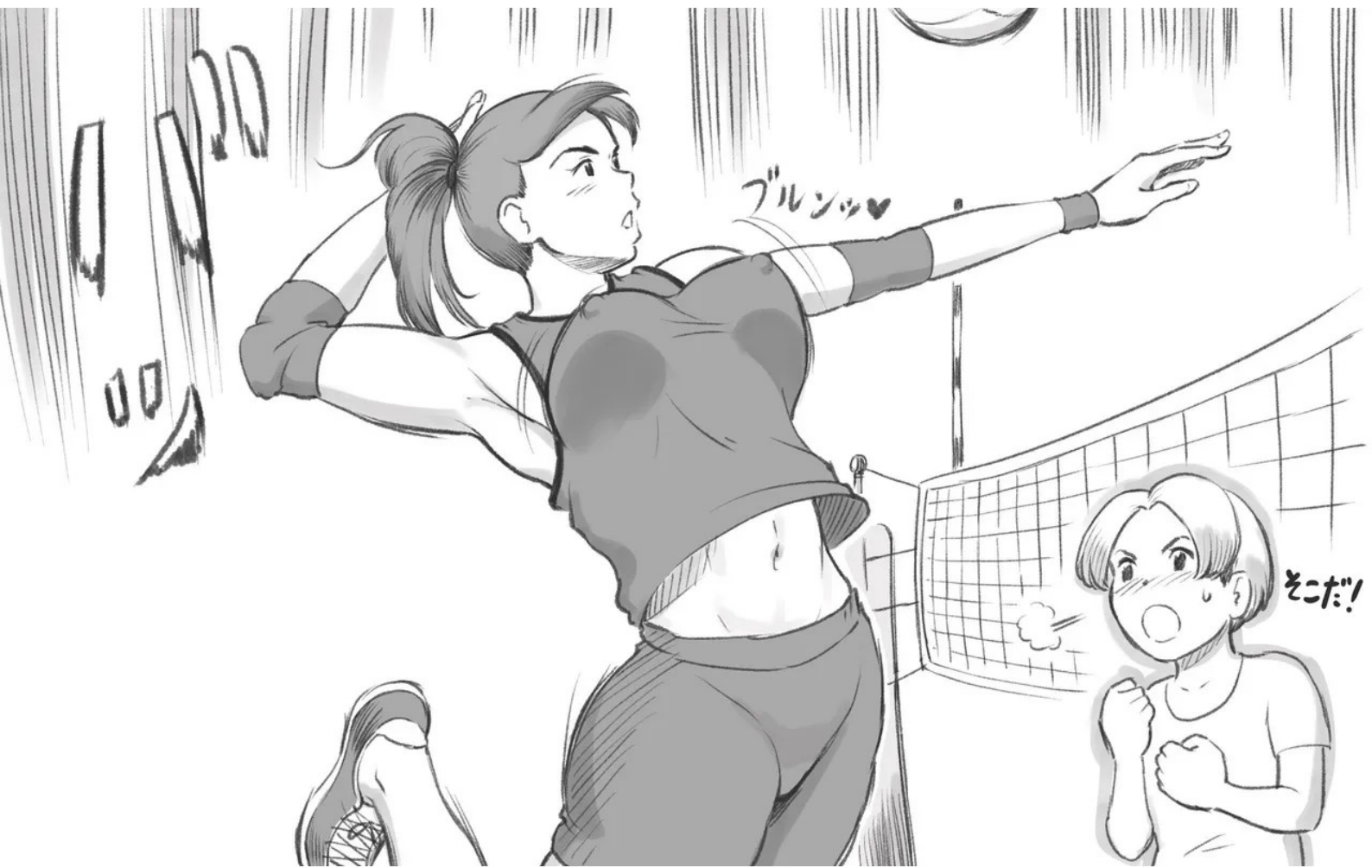


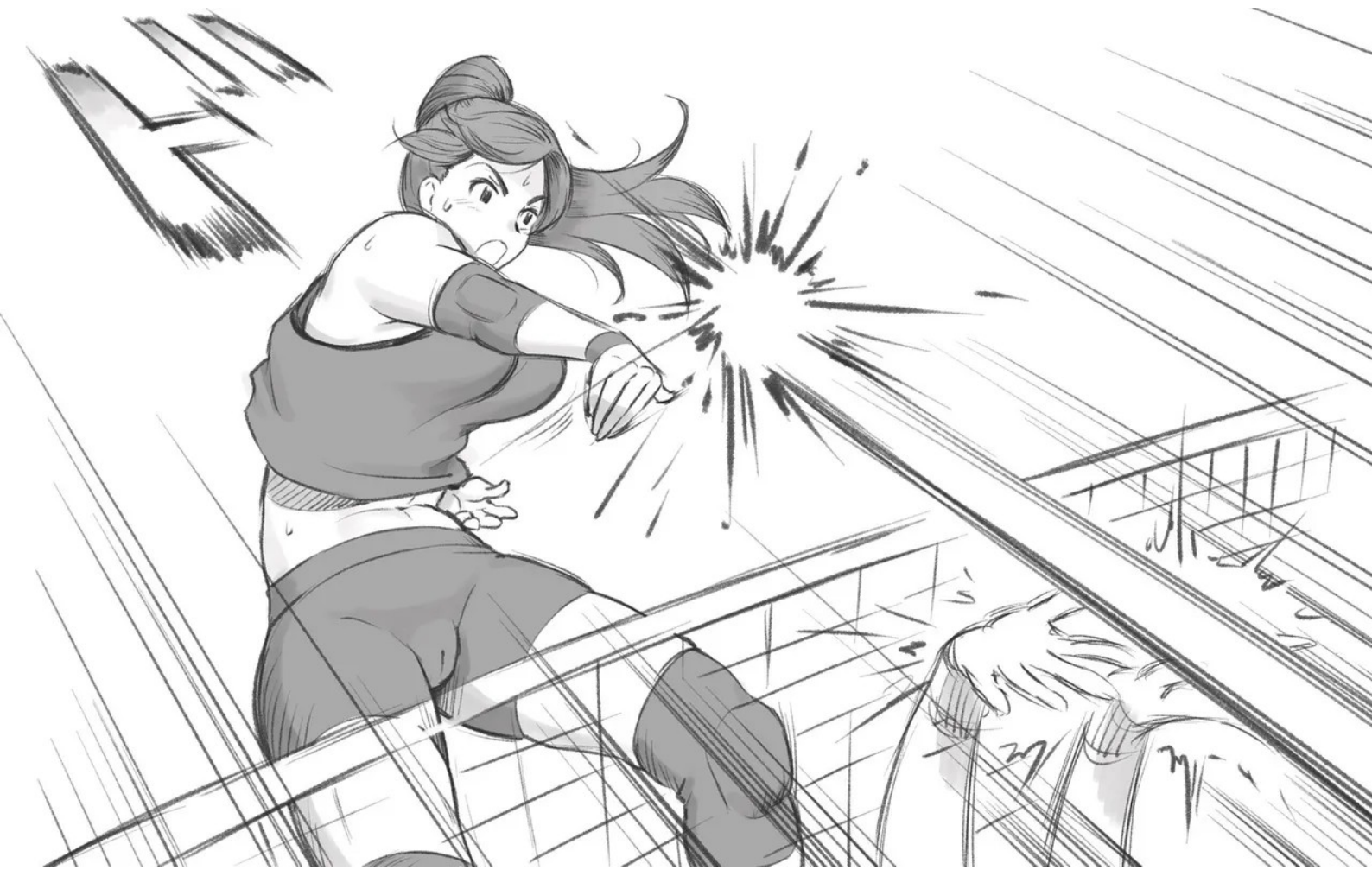
攻守に  
大活躍

敵も味方も  
圧倒されるパフォーマンスを  
見せつけ



一躍大注目を浴びる由紀さん





「いやったー！初勝利いっ！」  
「由紀さんすっごーい♥」

(へえ…ママってあんなに  
バレーがうまかったんだ)

普段の由紀さんからは想像も  
つかないカッコいい姿を見せ  
つけられたハルトくん。



思えばこれが  
始まりだった  
のです…



ママの活躍を見守っているうちに  
ハルトくんは気づいてしまいました



…そして、その匂いが  
とってもいいことに…♡

由紀さんが  
汗っかきで

体臭が  
濃いことに

ムラ  
ムラ…

あまりいい匂いなので  
気になって仕方がない  
ハルトくん。

とうとう汚れたままの  
ユニフォームをこっそり  
嗅ぐことまで始めて  
しまいます。

(んん〜〜〜…  
なんかすっごく  
コーフンする)

知らないうちに  
オチンチンが  
勃起して…



我慢できなくなって  
シゴくと物すごく  
気持ちよく♡

夢中で勃起をシコると  
なんだかママとSEX  
しているような錯覚  
さえ覚えます♡



「うあああ♥オ、オシッコ  
出ちゃうううう♥♥」

ビュルルルッ♥

初射精で腰が砕けそうな  
快感に包まれるハルトくん。

ドロドロとした初々しい  
白濁液がママのパンツに  
染みてゆきます。



ママのパンツ  
汚しちゃった

ハアッ♥

ハア♥

すごい  
気持ち  
いい♥♥

ハアッ♥

それ以来、すっかり癖になって  
しまったのですた…♥

ビクワッ♥♥

ポタ  
ポタ





—— こうなるとハルトくんは以前のように由紀さんを見ることができなくなってしまいました。

(…ママってすごくスタイルがいいんだ)

ユニフォームの下で躍動する肉体を想像するとたまらなくなってきました。

試合のたびに興奮し、終わった後はママの汚れた服やパンツを激しくシゴくのが密かな楽しみになっていたのです♡

——さてそんなある日。

「ねえハルくん、お願いがあるんだけど。  
ママの自主トレ手伝って  
くれないかな」

ママさんバレーにハマっていた由紀さんは、みんなと練習する他にも腕を磨きたいと思っていました。

息子と二人三脚ならできると踏んだのですが…

「お小遣いアップするから。ね？」  
「え、いいけど…」

ふと思いつくハルトくん。



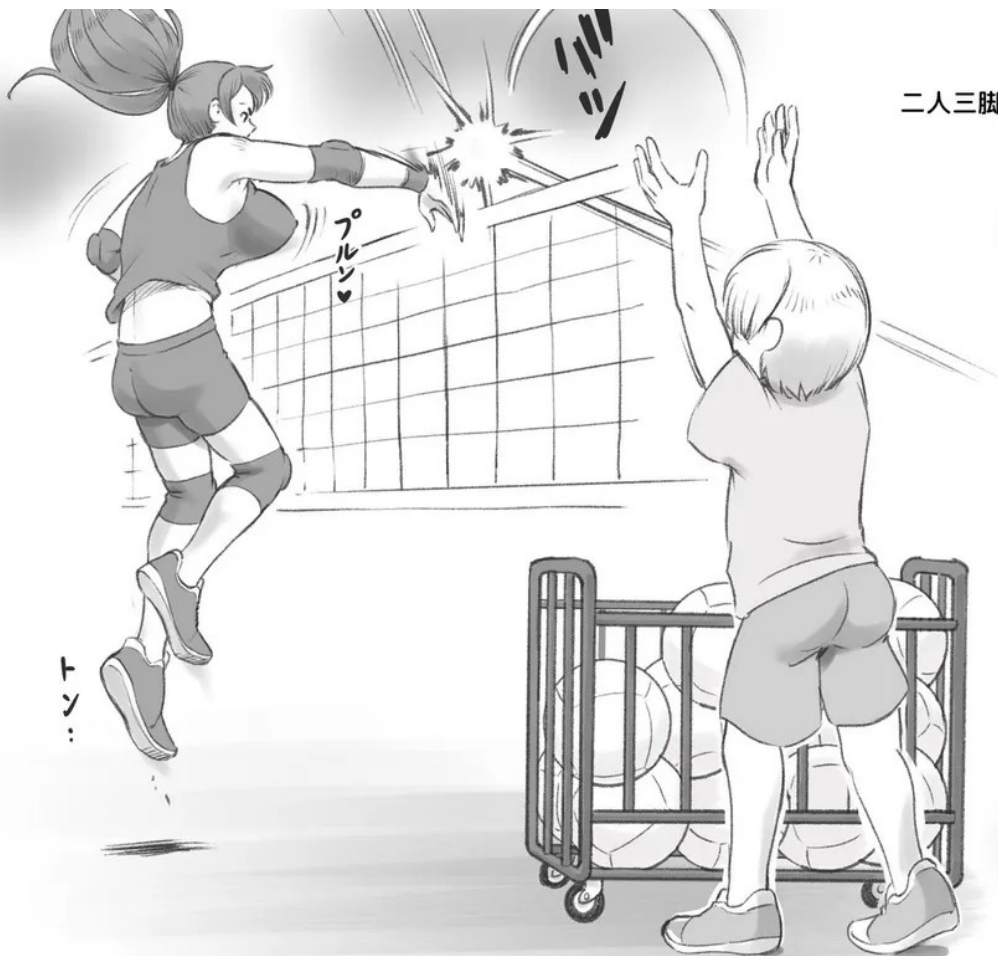
「それよりママの匂い嗅いでもいい？ お小遣いはいいから」

「え…ええ？？ ママけっこう臭いんだけど…？」

「ねえ〜ん、いいでしょお〜？」

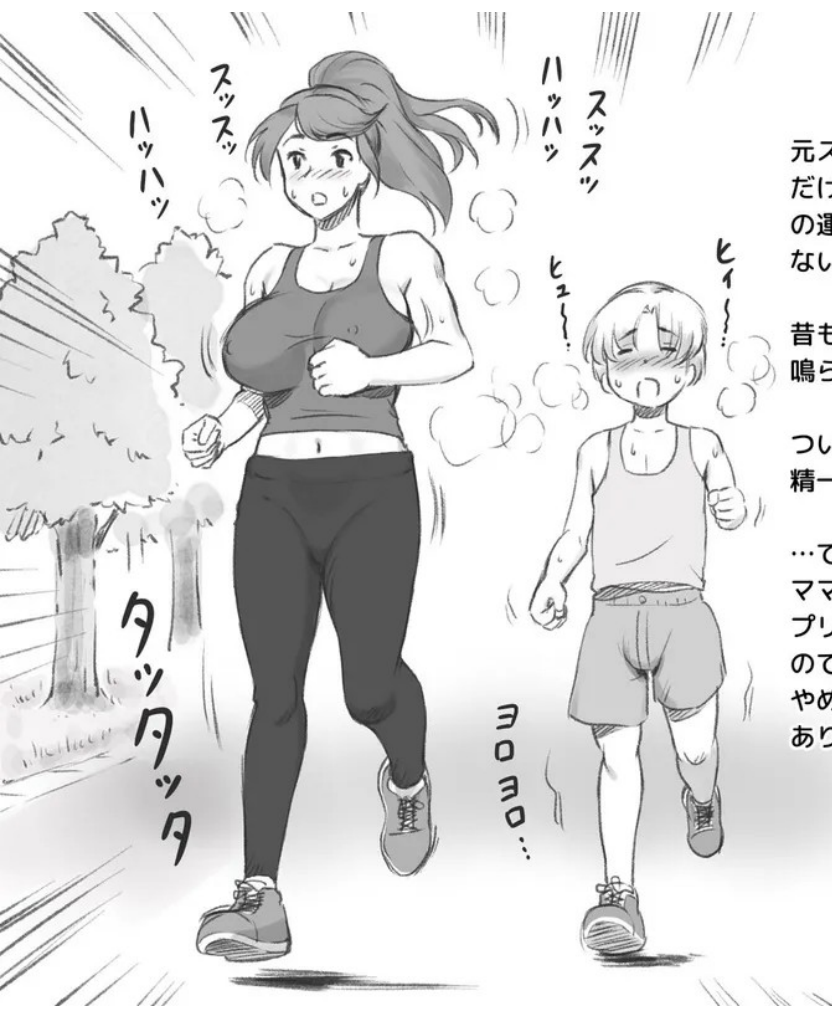
「え〜〜… まあそんなものでいいなら……」

思いがけない息子の変態癖にとまどう由紀さん。



二人三脚の自主トレ開始です月





元スポーツ選手  
だけに由紀さん  
の運動量は半端  
ないものでした。

昔も練習好きで  
鳴らしたもの。

ついてゆくだけで  
精一杯のハルトくん。

…ですが、すぐそばで  
ママの濃い体臭を嗅ぎ  
プリケツを眺められる  
のですから、  
やめられるわけが  
ありません♡



「…え〜… あの… ほんとに  
嗅ぎたいの…？」  
「うん！約束だよ？」  
「そ、それじゃあどうぞ…  
ワキガ臭くても文句言わないでよ？」

しづしづ腋を剥き出しにする由紀さん。  
しっかり脱毛してデオドラントも  
掛けていますが、どうしても  
臭ってしまうのですが…

まさか息子の性癖に  
マッチするとは  
思ってもみませんでした。

…ですが、すぐ近くで  
匂いを嗅がれていると  
ワキガとは違う汗じが滲んで  
くるのです。



始めは腋だけ  
でしたが、  
次にハルトくんは  
お尻も嗅ぎたいと  
言い出しました。

「ちょっ…冗談でしょ？」

最初は相手にしなかった  
由紀さんですが、何度も  
お願いされるうちに  
とうとう折れてしまいました。

(まあワキガを嗅がせるのも  
尻の匂いを嗅がせるのも  
一緒といえば一緒か…  
それにしてもうちの子に  
そんな性癖があるなんて)

「そ、それじゃあ…どうぞ」  
「…ああ…良い匂い…♥♥」

(…やだ。濡れてきちゃった  
じゃない…♥)  
気がつくとアソコが  
熱くなって  
股間にジワリと  
滲むものが…

ハルトくんの  
せいで  
どうやら  
ママも性癖に  
目覚めてきた  
ようです…♥



自主トレの成果が  
あらわれたのか  
由紀さんはますます  
快調になりました♪

勝利をいくつも重ねる  
うち、いつのまにか  
ご近所の応援や  
チームメイトから  
熱い視線を受ける  
ことも…♡

そしてもちろん  
ハルトくんは  
躍動する母親の  
揺れる胸や  
お尻を眺めて  
アソコを熱く  
させるのでした♡

が…



「ハルトくんさ。  
ママのパンツで  
オナってるでしょ」

ある日突然由紀さんに  
言われ、ハルトくんは  
プチパニック！

「え、え、どどど…」  
「だって精液付けた  
まま洗濯に出すん  
だもん。そりゃ  
わかるわよー」  
「うええ…ご、ご、  
ごめんなさい」  
「ダメ。  
謝っても  
許してあげ  
ない。  
だってさ…」



ドビュ

「今だってココ  
硬くして…」

「んあっ、  
ダメえ！」



「えっ、ナニ!?!」

女の子のような悲鳴とは裏腹に  
短パンの布地を突き抜ける息子精子！  
その勢いに由紀さんはビククリ。

(おっどろいた…今の2mは飛んだわよ。なんて元気な…)



「ちょ、ちょっと  
見せて……  
わぁお♡」

(まだ子供だと思ってたのに体はもう大人  
なのね。成長したらあの人より大き  
くなるんじゃない…?)

ヘソに届くほどビンビンに勃起した息子  
チンポに思わず生唾を飲んでしまいます♡

(くっさあい…今射精した  
ばかりのスペルマとチン  
カスのせいだわ。  
きれいにしなくちゃ…♡)

無意識に舌を這わせて  
いました♡

そして自分から勃起を啜え、十何年ぶりの  
フェラチオを始めてしまったのです♡

「マ、ママあ…♥」

とまどうハルトくんを想像もできない快感が襲いました♥

母親の口がまるで性器のように…いいえ、間違いなくクチマンコになって息子の肉棒をおいしそうにしゃぶっているのです♥

たまらずハルトくんは由紀さんの頭を抱えると夢に見ていたイマラチオを開始しました♥



(気持ちいい♥  
きもちいい♥  
キモチイイ♥  
ママのお口  
すごい♥)



夢中で腰を振る息子に由紀さんも必死で応えました♥喉奥まで突かれるえづきに耐え、ゴリゴリ擦られる乱暴な刺激に興奮が止まりません♥





「ママ、舐めさせて♡」  
「う、うん…いいわよ♡」

息子の要求にあらがえない  
由紀さん。



体臭の濃い腋を舌で  
執拗にねぶられると  
体中が疼いてしまいます♡

ビンビンに勃起した乳首を  
つねられて、お股を擦り  
合わせ悶えるのです♡

(ああ…息子のアレすごく  
欲しい。でも母子だし…)

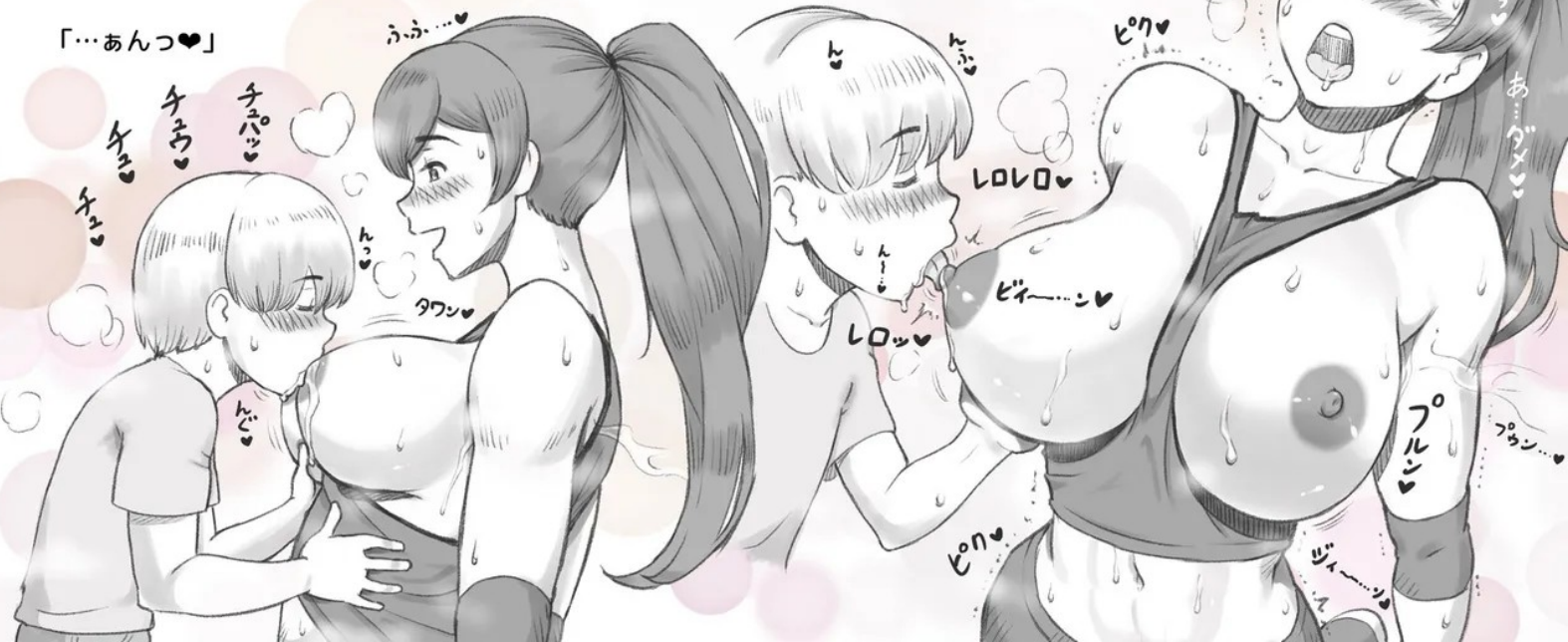
「あらあら。赤ちゃんなんだから、もう…♥」

「おっぱいを吸いたい」と言うので、由紀さんは子育て以来じつに久しぶりに息子の授乳をしました。(乳離れしたと思ったのに、まだまだ子供ね♥) そんなことを思っていたら…

「…あんっ♥」

夢中で豊満な乳房へしゃぶりつく息子の舌使いに思いがけず体が反応してしまいます。それでも痛いほど硬くシコった勃起乳首にハルトくんの舌は刺激が強すぎました。

(あ…ちょ…コレ…子供の吸い方じゃな…♥)



さらに要求は  
エスカレート♡

フク♡

フツ♡

カア……♡

フツ♡

「ママの腋マンコ  
とっても気持ち  
いい……♡♡」

ポチポチ♡  
つたつた♡

ヌヌ♡

くっ♡

ア……♡

トロ……

ハニハニ♡



「あはん♡ もっハルトくん元気い♡」

大量の息子精子を浴びて由紀さんは発情して  
いました♡ 青臭い匂いを胸いっぱい吸い込むと  
股間が熱くてたまらなくなるんです♡  
濃厚ミルクを飲み干すと、もううっとり♡

あは♡  
ハタタ♡  
ん〜...♡♡  
チュポ♡  
チュポ♡  
チュウ♡  
チュウ♡  
ムワワー...  
ゴクッ♡  
ゴクン...♡  
ピョ♡  
ピョ♡





「おあつ♡このチンポ  
イイっ♡息子チンポ  
ハマるっつっ♡♡♡」

あう♡

ひいん♡

いぐっ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

思いがけない息子の  
力強い腰使いに早くも  
由紀さんはメロメロ♡  
日頃の母親の仮面を捨てて  
淫らな雌の顔つきに…♡

ハッ♡

ブル

ズホッ♡

ズホッ

ズホッ♡



「アヘッ♡ このチンポらめっ♡  
癖になりゅッ♡ 病みつきにイ♡  
ハ…ハルくんもっる腰振ってッ♡  
ママをめちゃくちゃにしてエ♡♡」

久しぶりのセックス…それも  
息子の硬く大きな肉棒で突か  
ると頭が真っ白に…♡  
悶える母に凛々しいバレ  
ー選手の姿はありません♡





ドブ...♡

だ  
(あ... 生で射精されちゃった...  
に... 妊娠するかも.....お♡♡♡)

お...も...も♡

ひっ♡

かはっ♡

おっ♡

ドブ

ギョウウ♡

ハハッ♡  
ハハッ♡

ビキヤ♡      ガッポン...♡

フジエウ♡

ドブ...

ドブ...♡

ハチヤ♡

「…はあ♥はあ♥ハルくん…♥  
気持ち…よかった…?」  
「…ふう…ふう…♥う、うん…♥  
とつても…♥♥マ、ママは…?」  
「すごくよかったよ…♥パパより  
も感じちゃったくらい♥♥」  
「!?ほ、ほんと?じゃ、じゃあ  
これからはボクが  
パパのかわりに  
なるね♥」  
「ふっふっ、おませさん♥  
いいわよ♥今日からママの  
オマンコはキミのもの  
だから、ね…♥」  
「もう1回していい?」  
「もちろん♥何回でも  
して♥ママを喜ば  
せて♥♥♥」



——— と、いうわけで  
その日以来母子は  
セックスのトレーニングも  
熱中すること  
になったのです…♥♥♥



ムスコのエキスを浴びる  
ようになってから  
由紀さんのプレイには  
さらに磨きが  
かかりました♡

全身から濃い  
体臭を漂わせながら  
鋭いサーブや  
スパイクを連発。  
対戦相手を寄せつけ  
ません。

ママさんチームは  
順調に勝ち進みます。

か〜う〜...

か〜う〜...

ムワ〜...

タラ〜ん♡

か〜う〜...

…そして、それを見守るハルトくん♡

股間を熱くたぎらせ  
ママの姿態に目は  
釘付け…♡ そして  
試合が終わった後の  
「ご褒美」は激しい  
モノになるのです♡

「…ちょっと奥さん、  
由紀さんのムスコ  
さんたら…♡」  
「あらあ〜♡ 若いって  
ステキ♡」

んふ、♡ ♡



ス"キス"キ♡

ドキドキ♡

ママがんばれ

おっばい  
すごい  
揺れてる

ヒョヒョヒョ♪

「ふふっ…もう赤ちゃん  
なんだから…♥♥♥」

ふたりは毎日トレーニングに  
励みました♥  
家の中はもとより、体育館  
でも、屋外でも、トイレでも、  
人目につかないとあらば  
その場で即合体♥ 母子交尾に  
我慢なんて無理♥



(わたし…もう  
この子でいい  
かもしれない  
…ハルトの女  
で…♥)

(息子が望むなら  
妻になっても…♥)  
そんな願望が密かに  
由紀さんの中で  
育っていました…♥

# そして優勝!!

「いや～ん、由紀さんカッコよかったあ～♡」  
「由紀さんのおかげです♡」  
「ありがとうみんな！チーム全員の勝利よ!!」

フッ♡♡

「…おめでとうママ♡」  
「ありがと♡ハルトくんが  
毎日『励まして』くれた  
おかげよ♡『ご褒美』は  
貰えるのかしら…?♡」  
「うん！ボクにもだけど、  
ね…♡」

準優勝  
反省会  
飲むぞぉ～!

おーっ!!!

フフフ ♪ ほう…

ハッ♡  
ハッ♡

ギュ♡

コスコス♡





興奮の余韻に  
我慢できないふたりは  
更衣室ですぐに抱き合  
いました♡

互いに相思相愛を  
確かめ合うと後は  
もう交尾に耽るのみ♡

獣のように叫びながら  
母子セックスに酔い痴れた  
のです…♡♡♡

「ママ…ぼく、ママが  
好きだ♡」  
「わたしもよ…  
ハルくん♡」



おほっ♡

をっ♡

おっ♡

はっ♡

おほっ♡

ブル♡

ドキ♡

ドキ♡

はっ♡

ズッ♡

ドキ♡

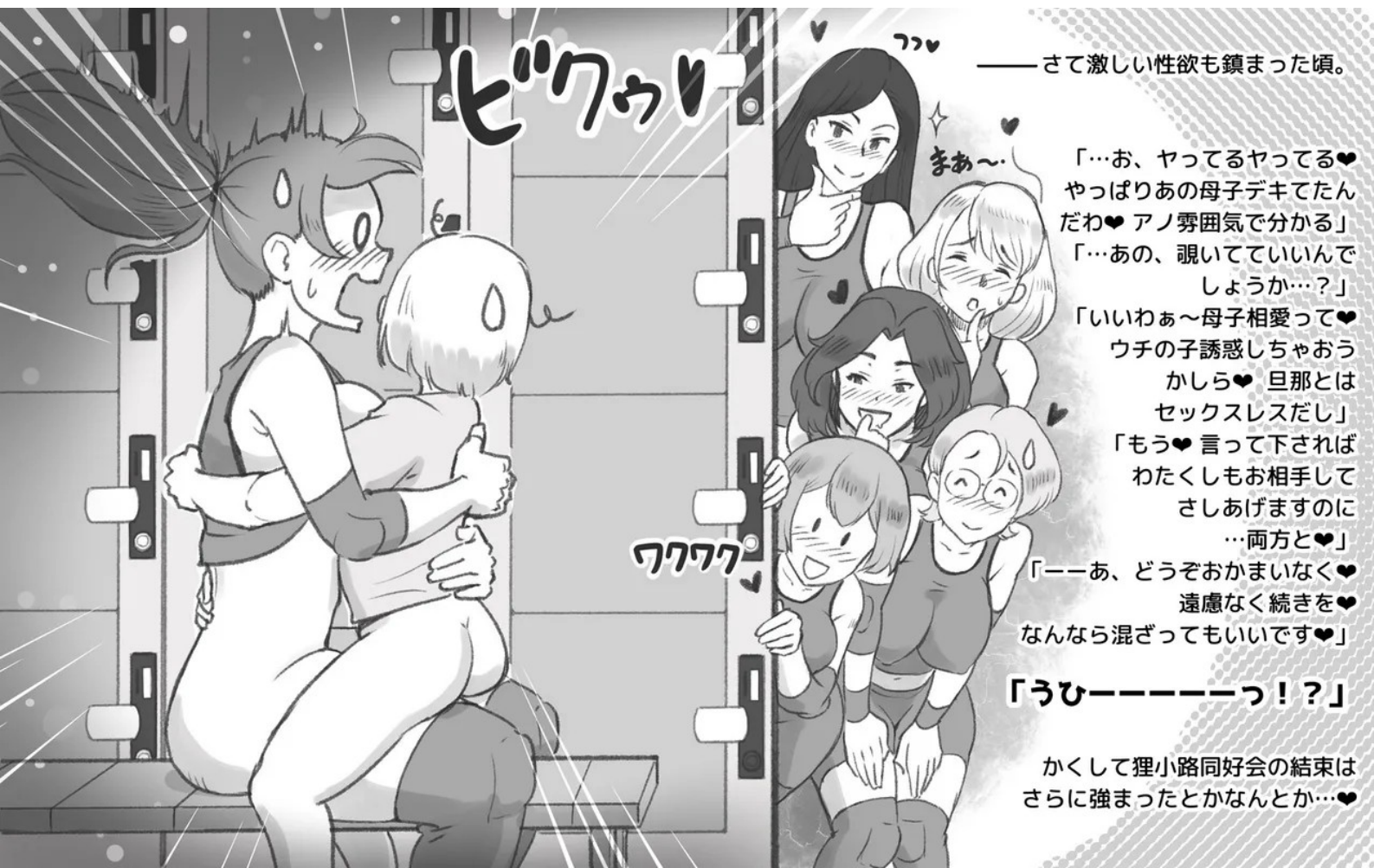
ドキ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡





——さて激しい性欲も鎮まった頃。

「…お、やってるやってる♥  
やっぱりあの母子デキてたん  
だわ♥ アノ雰囲気分かる」  
「…あの、覗いてていいん  
で  
しょうか…？」  
「いいわあ〜母子相愛って♥  
ウチの子誘惑しちゃおう  
かしら♥ 旦那とは  
セックスレスだし」  
「もう♥ 言って下されば  
わたくしもお相手して  
さしあげますのに  
…両方と♥」  
「—あ、どうぞおかまもなく♥  
遠慮なく続きを♥  
なんなら混ぜてもいいです♥」

「うひ————っ!？」

かくして狸小路同好会の結束は  
さらに強まったとかなんとか…♥

半年後 ——

ポテ腹になっても  
ふたりの母子交尾は  
続いていました♡

由紀さんは妊娠  
したせいか前より  
性欲がある  
くらいです♡

今日も仲良く  
プレイを楽し  
んでいる  
最中♡

ヌッポ♡

ヌッポ♡



ヌッポ♡

ヌッポ♡

「…ママ、お腹辛くない？休もうか？」  
「大丈夫♡早く逢いたって赤ちゃんが動いてるわ♡  
ハルくんは優しいね…♡」  
「ぼく、大きくなったらママと赤ちゃん守る！」  
「うふ…期待してる♡ならバレーのチーム組めるくらい産んじゃおうかな♡」  
「本当？じゃあ、これからもいっぱい♡エッチしなくちゃ♡」

「ママ♡ほくのお嫁さんになっ♡て♡結♡婚♡し♡て♡っ♡♡♡♡」  
「んほお♡なりゅっ♡なりましゅ♡ハルトの妻にっ…なりゅううう♡♡♡♡」

ん…をっ♡

イグッ♡

腹ボテマンコ  
息子チンポで  
イグッ♡

ピクン♡

ド  
っ♡

ド  
ビ  
ニ  
ル♡

ド  
っ♡  
ド  
っ♡  
ド  
っ♡

— ふたりのプレイは  
終わりそうに  
ありません…♡♡♡

ゲーム♡セット

ピクン♡

ピクン♡

